

8 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

二 あとの問一～問七に答えなさい。

問一 次のア～オの読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

ア 九成宮醴泉銘 イ 落款 ウ 虞世南 エ 羅紋硯 オ 米芾

問二 次のア～オの語をそれぞれ漢字で書きなさい。

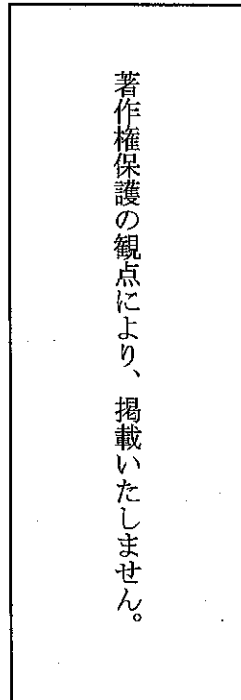
ア たんざく イ おりじょう ウ かんすぼん
エ いとないしんのうがんもん オ でつちようぼんわかんろうえいしゅう

問三 次のア～オは、書道に関連のある語です。それぞれの説明を簡潔に書きなさい。

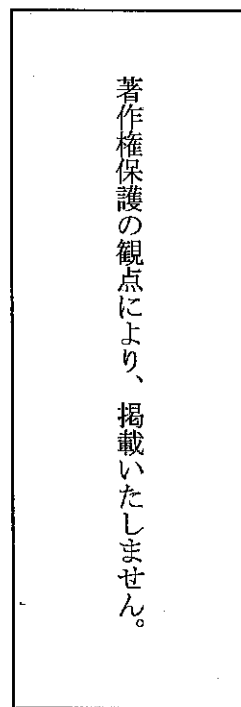
ア 露鋒 イ 摩崖 ウ 双鉤填墨 エ 連綿 オ 懸腕法

問四 次の図版①・図版②は、「真草千字文」の一部です。書かれている文字を、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

図版 ①



図版 ②



問五 「雁塔聖教序」について、あとのア～エに答えなさい。

ア 「雁塔聖教序」は、二つの碑文を合わせた呼称です。この二つの碑文の名称をそれぞれ漢字で書きなさい。
イ 「雁塔聖教序」に「般若心経」を加え、僧の懷仁が王羲之の真跡から集字した書跡を何といいますか。書きなさい。

8 高等学校 芸術科（書道） 問題用紙

（五枚のうち二）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

ウ 次の図版①は「雁塔聖教序」の一部です。また、あとの図版②～⑤は、図版①の一部を拡大したものです。図版②～⑤について、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

エ 「雁塔聖教序」の用筆・運筆の特徴を簡潔に書きなさい。

問六 次の図版①・図版②について、あとのア～オに答えなさい。

図版①

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版②

8 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

ア 次の文章は、図版①の概要について述べたものです。文章中の a b c に当てはまる語をそれぞれ漢字で書きなさい。

この書跡は、佐久間将監実勝(直勝、真勝ともいう。)が京都の大徳寺境内に造った茶室 a に愛蔵したことが名称の由来となっている。また、この和歌は、b の四季の部に属する。この書跡は枳形の唐紙に、書き出しの位置や行の長さ、行間などに変化をつける c の形式(行の構成法)で書かれている。

イ 図版①の筆者と伝えられている人物名を書きなさい。

ウ 図版①は三色紙の一つです。三色紙といわれるあと二つの書跡名をそれぞれ書きなさい。

エ 図版②は、図版①の一部を拡大したものです。ここで示されている七つの文字の字源をそれぞれ楷書で書きなさい。

オ 図版①の和歌の大意を書きなさい。

問七 次のア・イに答えなさい。

ア 次の文は、清の包世臣の「芸舟双楫」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。
習法易而創體難。

イ 次の文は、明の謝肇淛の「五雜俎」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。

墨太陳則膠氣盡而字不發光、太新則膠氣重而筆多纏滯、惟三五十年後、最宜合用。

二 次の問一・問二に答えなさい。

問一 「書道Ⅰ」の授業において、表現の指導に当たって、篆刻を扱った授業を行うこととします。その際、表現の指導の質を高めることをねらいとし、デジタル機器を効果的に生徒に活用させることとします。どのような学習活動が考えられますか。デジタル機器を活用させる目的と場面、デジタル機器の活用法を含め、具体的に三つ書きなさい。

問二 生徒に模範例として示す印稿を作成することとします。語は「賢子」とし、朱文で作成します。次の図版を参考にして草稿を枠内に鉛筆で書きなさい。また、作成する際の留意点を具体的に三つ書きなさい。

図版

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

8 高等学校 芸術科（書道） 問題用紙

（五枚のうち四）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

【三】 次の表1・表2は、平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ の目標と内容構成等との関連の一部を示したものです。表1・表2を踏まえて、「書道Ⅰ」の「漢字の書」の授業において、あとの図版を用いて、全四次、八時間の単元を構想することとします。どのような単元目標、配当時間、学習活動及び指導上の留意点を設定しますか。それぞれ書きなさい。なお、学習活動において使用する用紙は、半紙及び半切二分の一の大きさとしします。

表 1

領域	項目	事項	目標との関連
A 表現	(2) 漢字の書	ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。	「思考力、判断力、表現力等」
		イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。	「知識」
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。	「技能」
		(ア) 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成	
		(イ) 意図に基づいた表現	
		(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり	
		(イ) 書体や書風と用筆・運筆との関わり	
		(ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆	
		(イ) 古典の線質、字形や構成を生かした表現	

表 2

領域	項目	事項	目標との関連
B 鑑賞	(1) 鑑賞	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書の高さや美しさを味わって捉えること。	「思考力、判断力、表現力等」
		(ア) 作品の価値とその根拠	
		(イ) 生活や社会における書の効用	
		イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。	「知識」
		(ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり	
		(イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化	
		(ウ) 漢字の書体の変遷、仮名の成立等	
		(エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態	

図版

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

8 高等学校 芸術科（書道） 問題用紙

（五枚のうち五）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

四 平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ及び書道Ⅱについて、次の問一・問二に答えなさい。

問一 書道Ⅰ 目標 には、次の資料のように示されています。傍線部について、どのようなことを意識した活動が求められていますか。簡潔に書きなさい。

資料

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

問二 書道Ⅱ B 鑑賞 (1)鑑賞 ア には、次の表のように示されています。傍線部について、どのようなことに留意して指導する必要がありますか。簡潔に書きなさい。

表

	B 鑑賞
	(1) 鑑賞
ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えること。	
(ア) 作品の価値とその根拠	(イ) 生活や社会における書の美の効用と現代的意義

(五枚のうち一)

受験番号			
		氏名	

一													問題番号
問五			問四	問三					問二		問一		解答欄
エ	イ	ア	①	オ	エ	ウ	イ	ア	エ	ア	エ	ア	
	ウ ② ③ ④ ⑤		②						オ	イ	オ	イ	
	ウ		ウ										

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

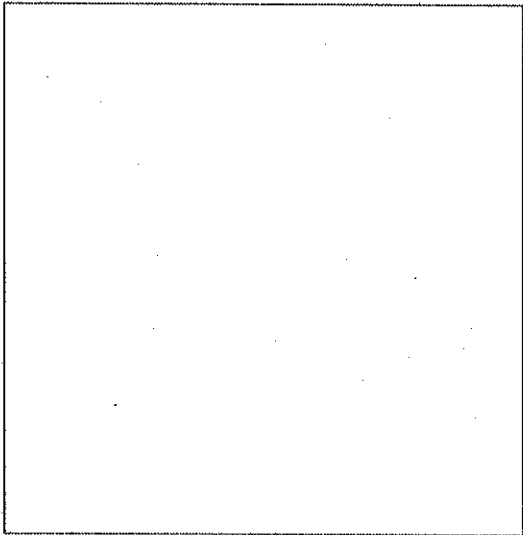
一							問題 番号
問七		問六					解答 欄
イ	ア	オ	エ	ウ	イ	ア	
						a	
				b			
				c			
			p				

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号				解答欄		
問二				問一		
						

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち四)

受験番号

氏 名

問題
番号解 答
欄

三			
単元目標			
	配当時間	学習活動	指導上の留意点
第一次			
第二次			
第三次			
第四次			

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち五)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

四		問題番号
問二	問一	解答欄

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕										採点上の注意		配 点		
一	問一	ア	きゅうせいきゅうれいせんめい											各2×5	100	
		イ	らっかん													
		ウ	ぐせいなん													
		エ	らもんけん													
		オ	べいふつ													
	問二	ア	短冊											各2×5		
		イ	折帖													
		ウ	卷子本													
		エ	伊都内親王願文													
		オ	粘葉本和漢朗詠集													
	問三	ア	起筆の際、穂先が線の外側に現れる用筆法。										内容を正しく捉えていれば、表現は異なっているもよい。	各3×5		
		イ	天然の外壁や巨石に碑文や経文、仏像などを刻したもの。													
		ウ	書の上に敷いた薄紙に筆跡の輪郭を写し取り、その中を墨で塗り込めることによる複製制作の方法。													
		エ	二文字以上を続け書きすること。													
		オ	肘を宙に浮かせて構える方法。													
	問四	①	天地玄黄											各5×2		
		②	金生麗水													
	問五	ア	大唐三蔵聖教序										大唐三蔵聖教序もよい。	2×2		
			大唐皇帝述三蔵聖教序記										大唐三蔵聖教序記もよい。			
		イ	集王聖教序										集字聖教序、七仏聖教序 もよい。	3		
		ウ	②	転	③	双	④	宝	⑤	蓋			各2×4			
		エ	・蔵鋒の起筆が見られ、点画の形や方向の変化などの特徴に行書的な用筆が表れている。 ・雁塔聖教序は、楷書でありながら、篆隸行草の用筆を含み、直筆側筆・蔵鋒露鋒・俯仰などのあらゆる用筆で変化の妙を駆使している。										内容を正しく捉えていれば、表現は異なっているもよい。	6		
	問六	ア	a	寸松庵										古今集 もよい。		各2×3
			b	古今和歌集												
			c	散らし書き												
		イ	紀貫之											2		
ウ		継色紙										順序は問わない。	各2×2			
		升色紙														
エ		盤留者春久止毛											各1×7			
オ	梅の香を、燻香のように袖に移して、もし留めることができたならば、たとえ春は過ぎ去っても、この香が春の形見となろう。										内容を正しく捉えていれば、表現は異なっているもよい。	5				

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕	採点上の注意	配 点	
二	問七	ア 書道において古人の筆法を習うことは容易であるが、独自性を出すことは難しい。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっているもよい。	4	
		イ 墨は古すぎると膠が死んでしまって字に輝きがなく、新しすぎると膠が重くて筆が伸びない。ただ数十年ほど経ってからが、最も使うのに適している。		6	
二	問一	・書の表現の多様性に気付かせたり、書の表現性や表現効果について理解を深めさせたりするために、表現の工夫の観点、書の表現性や表現効果等について指導するに当たり、教科書や配布資料等と併用し、プロジェクトを用いての大画面投影や、ICT端末で具体例となる様々な作品や印稿を効果的に提示・共有する。 ・表現における技能面での課題や成果を実感的に捉えたり、構想・工夫に生かしたりするために、ICT端末（撮影機能あり）を使い、生徒自身が制作している過程での運刀の様子を撮影した動画と示範動画とを比較したり、生徒個々が必要とするタイミングで視聴したり、スロー再生や繰り返し機能等を使って自身にとって効果的な方法で視聴したりする。 ・自身の学習についてまとまりをもって振り返り、学習を通して身に付けてきた知識及び技能の蓄積と、見方・考え方の働きを捉え、見通しを立てて次の学習へとつなげるために、制作した印影の画像や、構想や表現の工夫の過程、意見交換の経緯等をデジタルポートフォリオとして記録・蓄積する。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっているもよい。	各8×3	40
	問二			4	
		・文字を右から左へ配置する。 ・図版の字形そのままではなく、印面の大きさに合わせて、適切な大きさに拡大・縮小する。 ・篆書の字形の特徴を理解し、文字のバランスを整える。 ・横画は水平にする。 ・字形は縦長で、原則として左右相称にする。 ・起筆は蔵鋒の表現となるようにする。 ・線の太さは一定で、抑揚のない表現とする。 ・字形の特徴を合わせる。		各4×3	

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕		採点上の注意	配 点	
三	単元目標	・「風信帖」の線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。(A (2) ウ (4) 技能) ・行書体や「風信帖」の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について思考し、表現することができる。(A (2) ア (7) 思考・判断・表現) ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりを概念的に理解することができる。(B (1) イ (7) 知識) ・行書体や「風信帖」の線質、字形、構成の特徴を生かした表現を身に付けようとするとともに、書風の表現効果について考えながら、幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)		問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	8	
	次	配当時間	学習活動	指導上の留意点		
	一	一時間	・「風信帖」を鑑賞し、特徴を理解する。 ・「風信帖」と空海について理解する。	・骨格のしっかりした線質で、文字の大きさや線の太細の自然な変化があることに着目させる。 ・抑揚を利かせた用筆や筆脈により、自在に変化する文字の姿に着目させる。 ・「風信帖」と空海について、逸話なども交えながら説明し、興味・関心を高めさせる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	40
	二	二時間	・行書の特徴を理解する。 ・「雲書」を半紙に臨書する。	・行書の特徴を思い起こさせ、運筆法や筆路を理解させる。 ・点画のつながりを意識しながら、遅速の変化が明確な運筆で臨書させる。		
	三	三時間	「披之関之如掲雲霧」を半切二分の一に二行書きで臨書する。	・臨書する文字を観察し、筆脈と抑揚、それに伴う点画の丸み、連続や省略、筆脈の変化を確認させる。 ・筆脈や筆圧により生じる線の太細の変化や抑揚を意識して臨書させる。その際、つまずきのある生徒に対しては、筆の穂先の使い方等、個別に指導を行う。 ・毛筆の練習において日常的に使用する半紙を用いることで、用筆・運筆の基礎を反復練習させる。		
	四	二時間	・全体の構成について理解する。 ・「披之関之如掲雲霧」を清書し、自己評価する。 ・清書作品を鑑賞する。	・紙面と文字の調和を図るために、文字の大きさとその配列、余白との関係に配慮する必要があることを理解させる。 ・「風信帖」の特徴を理解し、自己の作品と比較しながら、筆脈や全体の構成に気を付けて清書させる。 ・自己評価する際に、他者の作品を鑑賞し、言語活動を通して、線質、字形、構成等の要素と表現効果について言葉で表現し、考えを伝え合い深めさせた上で評価させる。 ・創作活動につながる規格として、多字数を収めやすく、扱いやすい半切二分の一を用いる。		
四	問一	「A表現」の「(1)漢字仮名交じりの書」、「(2)漢字の書」、「(3)仮名の書」及び「B鑑賞」の全ての領域・分野の学習活動を通してという意味であり、書道の多様な表現と鑑賞の活動を通して学習を進めることを示している。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。	10	
	問二	人が芸術作品を目前にしたときに自らの感性に触れて覚える最初の感懐、すなわち直感的鑑賞によるよさや美しさの把握から、その根拠や価値を考察することによって、そのよさや美しさを捉える分析的鑑賞に発展させ、その印象をもたらし諸要素に関わる様々な視点から、生徒自身が作品を捉え、対象がもつ表現効果や風趣を捉えることができるように指導する。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。	20	